

ヒラメ放流種苗の食害種と捕食サイズ

福島県水産試験場 栽培漁業部

1 部門名

水産業－栽培漁業－ヒラメ

2 担当者

新関晃司・富山 毅

3 要旨

栽培漁業では種苗を放流した後に短期間に生じる食害が、放流効果の大きな低下を引き起こすと考えられている。福島県では全長10cmのヒラメ種苗を全域で100万尾放流しており、放流は主に餌生物の多い7～9月に行われている。ここでは食害について調査を行い、食害種と捕食サイズを検討した。

- (1) 2002～2006年にかけてヒラメの種苗放流直後に固定式さし網やソリネットを用いて捕食者の採集を行った。
- (2) 放流直後にヒラメ種苗を捕食していた生物は、主にヒラメ1～2歳魚、コモンカスベ、クサウオ、ヒラツメガニであった(表1)。
- (3) 全長10cmのヒラメ種苗を捕食できるサイズは、ヒラメでは全長20cm、コモンカスベでは全長32cm、クサウオでは全長22cm、ヒラツメガニでは甲幅7cmと推定された。

表1 ヒラメ種苗の食害が確認された生物

種	観察数	種苗を捕食していた尾数	捕食種苗数
ヒラメ1～2歳	10	3	7
コモンカスベ	28	8	11
クサウオ	9	5	10
トラザメ	8	2	2
ホシエイ	3	1	1
ニベ	20	1	1
ヒラツメガニ	336	8	8

4 主な参考文献・資料

- (1) 富山毅・江部健一(2006) 福島県におけるヒラメ放流種苗の被食. 平成18年度日本水産学会大会講演要旨集 p156.
- (2) Tomiyama T, Ebe K, Kawata G, Fujii T (in press) Post-release predation on hatchery-reared Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* in the coast of Fukushima, Japan. Journal of Fish Biology